

狂気か？
天才か？

昭和陸軍の異端児・石原莞爾が描いた「世界最終戦論」と「幻の勝機」

社会人が今こそ学ぶべき、組織と戦略の真髄。

彼は、50年後の未来を見ていた。



1910s-20s

都市を一瞬で
壊滅させる兵器

→ 核兵器

無着陸で地球を
周回する兵器

→ ICBM / 戦略爆撃機

東洋と西洋の
最終決戦

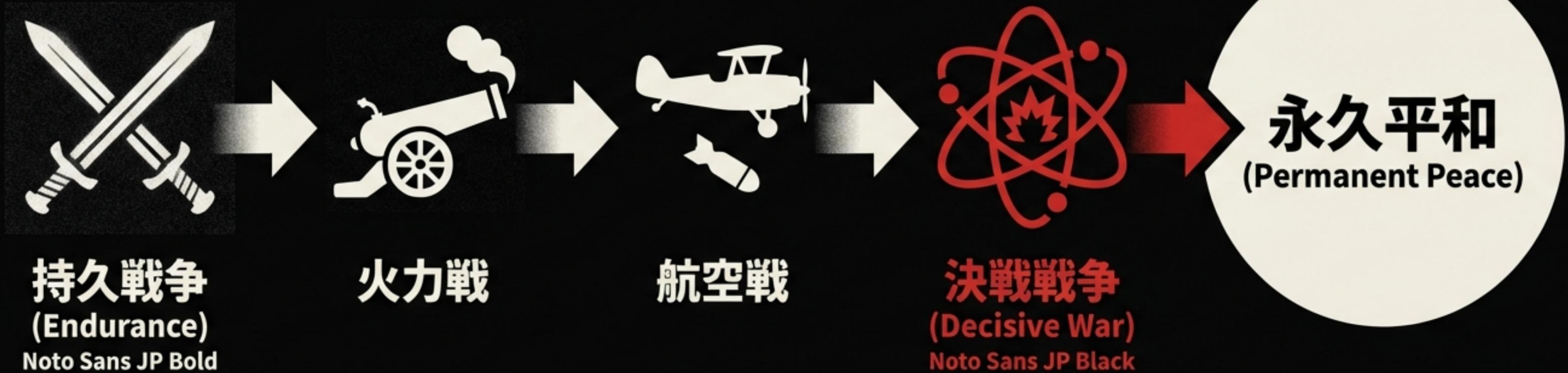
→ 冷戦構造



Future/1945+

大正時代に、現代の核抑止と冷戦構造を完全に見抜いていた男。

戦争の進化論：「世界最終戦論」



圧倒的な破壊力 = 戦争不能 = 平和

東洋 (日本) vs 西洋 (米国) の最終決戦を経て、人類は一つになる。

対米決戦への「準備」としての満州

- 持久戦争（WW1型）から決戦戦争への移行期
- 日本の致命的弱点：資源不足（石油・ゴム）
- 解決策：満州を自給自足の基地とする



「油が欲しいからとて戦争を始める奴があるか」

1万 vs 23万。悪魔的勝利の方程式。

10,000 VS 230,000

関東軍 / Ishiwara

中国軍 / Zhang Xueliang

作戦期間：たったの5ヶ月

戦術：司令部への電撃的攻撃

理想は「王道」、現実には「霸道」



理想：王道楽土・五族協和



現実：霸道・軍事支配

石原の嘆き：「私が作った怪物が、暴走を始めた」

Zen Old Mincho

組織の悲劇：石原莞爾 **VS** 東条英機

天才 (The Genius)



Noto Sans JP
「不拡大！対米戦に備えよ！」

Zen Old Mincho
官僚 (The Bureaucrat)



Noto Sans JP
「拡大！勝っているから進め！」

Noto Sans JP

石原の東条評：「東条上等兵（思想なき能吏）」

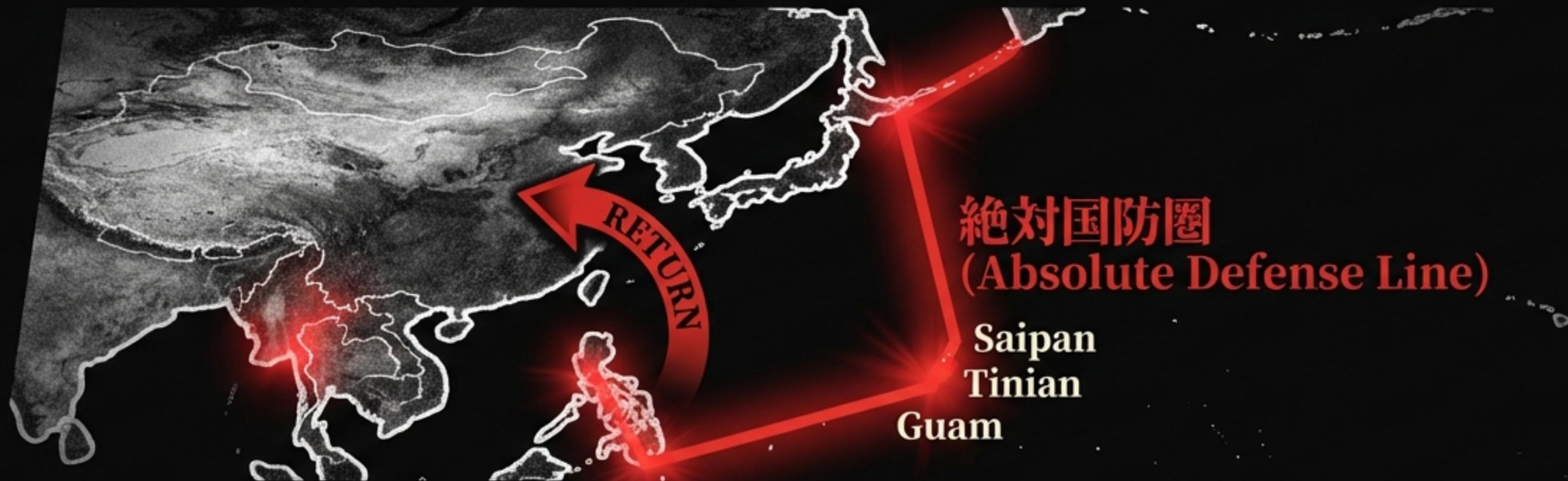
泥沼脩う沼化する「支那事変」

- 戦略なき拡大＝「持久戦」の泥沼
- 石原の警告：「敵は広い。領土を奪っても戦争は終わらない」
- 結果：対米戦の前に国力を使い果たす

消耗
(Attrition)

戦略的価値
(Strategic Value)

幻の勝機：太平洋戦争に勝つ具体的戦略



1. 【撤退】 中国本土から即時撤退・謝罪（東亜連盟）
2. 【要塞化】 サイパン・グアムを不沈空母化する
3. 【補給】 東南アジアの資源ラインを死守する
4. 【講和】 防衛による持久で、有利な条件で終戦へ

「補給」と「持久」のリアリズム

- 補給線（ロジスティクス）の限界を知る
- 「ガダルカナル」のような**餓死**の戦場を作らない
- 「完全勝利」ではなく「生存と独立」をゴールにする

Ishiwara Plan



Supply Line

Reality (Imphal/Guadalcanal)



Supply Line



予言の成就：都市壊滅

「都市を一瞬で破壊する兵器」石原が恐れ、東条が無視した「最終戦争」が、最悪の形で訪れた。





「ペリーを
連れだ
こい！」

• 東京裁判にて：

「日本に**帝国主義**を教えたのは**アメリカ（ペリー）**だ」

「裁くなら、まず**彼を裁け**」

「**民間人を虐殺したトルーマン**こそ**第一級戦犯**だ」

日本白明書

一、日本戦争者は「世界・平和道える
最終論の復讐を純
伊用開始する。

一、日本の新静を論て、
権め、確定する

日本論とに無病切
剣を捨て世界でそ

癒し



二、最終戦争被命にお

和統上の平租、あたら必

第十の全、を出慮なた

日本の物を銘めくれ、ホ

または平和、よ手可

絶対戦を捨て、すえの

今は和両道かにあげれば

剣別人民見説する。

剣を捨て、世界平和の捨て石に

- 最終戦争論の帰結 = 「戦争の放棄」
- 日本の新使命：
一切の武器を捨て、世界に「絶対平和」の道を示す。

正田千太郎

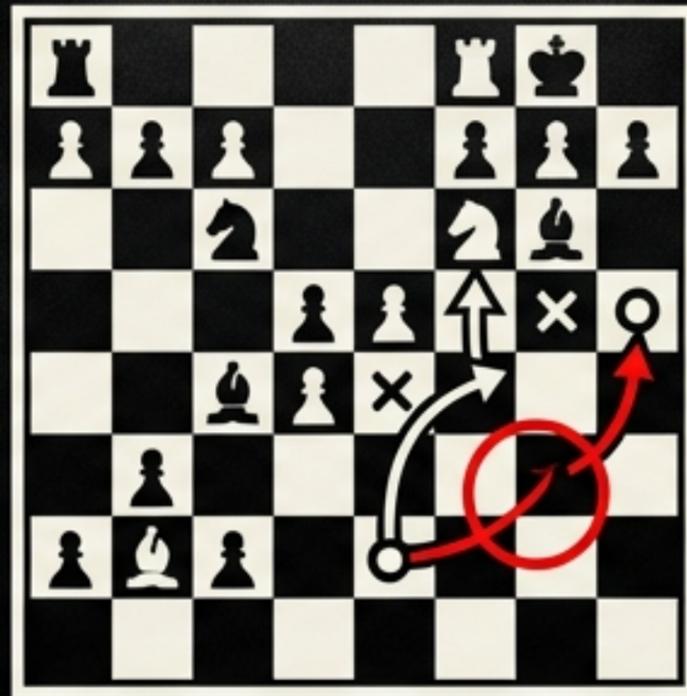
新武田

我々が石原莞爾から学ぶべきこと



大局観 (Vision)

50年先を見通す目
を持つ。



戦略 (Strategy)

補給なき戦い **(無謀)** を
避ける。



信念 (Integrity)

上司 **(東条)** であっても、
媚びずに正論を吐く。

天才の狂気をもっと深く知る



このスライドは入り口に過ぎない。本編動画で詳細を確認せよ。

[元動画を見る \(YouTube\)](#)